

近畿中部



近畿中部防衛局管内図
青色部分（東海支局管内）
2府7県の防衛に関する情報誌



「近中くん」
近畿中部防衛局のマスコットキャラクター
生年月日：平成19年9月1日（防衛の日）
出身：近畿中部地方
名前：近中くん（きんちゅうくん）
職業：憲兵
宝物：手作りのまが玉札
趣味：野球観戦（タイガース、ドラゴンズ、オリックス）
特技：たこ焼き、さしめんの早食い

近中くん

近畿中部防衛局広報誌

2022

冬



（潜水艦「じんげい」進水式全景：三菱重工業（株）神戸造船所）

目次

潜水艦「じんげい」命名・進水式	2
日米共同訓練（小松ATR）	3
部隊紹介～海上自衛隊由良基地分遣隊	4
防衛施設周辺自治体の紹介（舞鶴市）	5
局長感謝状贈呈（桑畑電機株式会社）	6
京都防衛事務所の紹介	7
米陸軍経ヶ岬通信所ニュース	8

潜水艦「じんげい」命名・進水式

清々しい秋晴れのなか、令和4年10月12日（水）、三菱重工業株式会社神戸造船工場（神戸市兵庫区）において、令和元年度計画潜水艦の命名・進水式が行われました。

式典は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら行われ、浜田防衛大臣や三菱重工業株式会社の阿部直彦セグメント長ら約120人の関係者が出席しました。

潜水艦の名称は、「海象、水中動物の名、ずい祥動物の名」を付与することが標準とされており、海上自衛隊の部隊等から募集した結果と各種の検討を踏まえ、新造された潜水艦は防衛大臣により「じんげい（迅鯨）」と命名されました。「じんげい」は海の王者たるクジラが波をけたてて疾走するさまを意味します。

進水式においては、関係者らが見守るなか、防衛大臣が斧で支綱を切断すると、くす玉が開くとともに、「じんげい」は徐々に海面へと進水し、会場は盛大な拍手に包まれました。

「じんげい」は、「たいげい」型潜水艦の3番艦であり、全長84.0メートル、全幅9.1メートル、基準排水量3,000トンで、リチウムイオン電池を搭載することによって、潜航性能の向上が図られています。また、「そうりゅう」型潜水艦より探知能力が向上したソナーや静粛性が向上した船体構造が採用されたほか、女性用寝室の確保やシャワー室の通路にカーテンを設ける等、女性自衛官の勤務にも対応しています。

「じんげい」は、今後、艦内ぎ装工事、海上公試を経て、令和6年3月頃に海上自衛隊へ引き渡される予定となっており、契約の適正な履行を確保するために、近畿中部防衛局調達部装備課の職員が監督及び検査業務に従事しているところです。



自衛艦命名式（「じんげい」と命名）



支綱を切断する浜田防衛大臣



進水式に参加する茂籠近畿中部防衛局長



進水する「じんげい」

日米共同訓練（小松ATR）

令和4年8月29日から9月2日までの間に、米軍再編に係る訓練移転（日米共同訓練）が航空自衛隊小松基地で行われました。

この訓練移転は、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減することを目的として実施しており、小松基地での訓練移転は平成19年5月に初めて実施してから、今回で13回目の実施となりました。

今回の訓練では、米軍三沢基地に所属する第35戦闘航空団のF-16（6機）が小松基地に展開し、航空自衛隊第6航空団所属のF-15と戦闘機戦闘訓練等を実施しました。当局は、関係自治体等との連絡調整や不測の事態に迅速に対応するため、小松基地内に現地対策本部（本部長：池田企画部長）を設置し、関係機関への情報提供、米軍への物品等の調達支援、基地周辺における騒音測定など、訓練移転が円滑に実施できるよう取り組みました。

今回の小松基地での訓練移転は、3年ぶりに実施されましたが、米軍、小松基地及び関係自治体等のご協力もあって、無事に終わることができました。



日米戦闘機と訓練参加者



現地対策本部における日米調整



米軍指揮官と現地対策本部長



日米指揮官と防衛局職員

部隊紹介～海上自衛隊 由良基地分遣隊

沿革

昭和14年11月、海軍紀伊防備隊として開隊、紀伊水道の防備を任務とし約2,000名の兵員が配置されていましたが、昭和20年8月の終戦に伴い解隊、敷地の約半分が由良町へ移管、民間に払い下げられました。昭和27年8月、保安庁警備隊大阪航路啓開隊由良基地設置、昭和29年7月海上自衛隊大阪基地隊由良基地に改称、同年10月、由良基地分遣隊が新編され、令和4年で開隊68周年を迎えました。



開隊当時の由良基地分遣隊

概要

由良基地分遣隊は、阪神基地隊の警備区内にある和歌山県に所在する海上自衛隊の唯一の部隊として、近い将来予測されている東南海、南海地震等による不測の事態に備えています。

また、少人数の部隊ではありますが、潜水艦等の由良湾出入港艦艇に対する後方支援や海上における危険物の処理に係る任務に従事しています。



由良基地分遣隊庁舎



由良基地分遣隊の全景

地域との交流

コロナ禍により、地域の皆様との交流イベントが中止又は縮小される中、奉仕活動を通じて地域のお役に立てるよう、隊員一同努めています。



基地周辺道路の清掃活動



「リフレッシュ瀬戸内」 海岸清掃活動

防衛施設周辺自治体の紹介（舞鶴市）

舞鶴市は京都府の北部に位置し、太古から海とともに歩んできた港湾都市です。明治22年に鎮守府の設置が決定され、明治34年、海軍舞鶴鎮守府が開庁しました。舞鶴鎮守府が建設した当時の最新技術を駆使し建造された赤れんが倉庫群や橋梁、水道施設などの近代化遺産は現在も数多く残っており現在、観光戦略拠点となっている「赤れんがパーク」を中心とした海軍施設と都市計画は、日本イコモス国内委員会に「日本の20世紀遺産20選」に選ばれています。



（れんが建造物の持つ魅力とその歴史を現在に伝える赤れんがパーク）

鎮守府開庁以来約120年にわたり日本海側の国防の拠点としての役割を担い続けている都市の責務として、地域に暮らす自衛隊員とその家族が住みやすく働きやすい環境づくりが大変重要であると考えており、平成29年には「自衛官の募集」



（赤れんが建造物の1つ、旧海軍施設への引き込み線用の「北吸トンネル」）

「海上自衛隊舞鶴所在部隊隊員とその家族に関する総合支援協定」を締結し、市役所庁舎への「自衛官募集」の懸垂幕掲示や、再就職求人情報提供等のサポート、緊急登庁訓練への保育士派遣、また、自衛隊施設に近い公共施設にサロンを設置するなどの交流の場づくりも行っています。

局長感謝状贈呈（桑畑電機株式会社）

令和4年11月1日（火）、桑畑電機株式会社の中野和幸代表取締役社長に近畿中部防衛局長から感謝状を贈呈しました。同社は、大正2年から現在に至るまで、永年にわたり造船所及び艦船搭載機器製造所の下請負として監視・制御盤・配電盤類等の電機機器を安定的に供給しており潜水艦に対しては、運航に直接関わる操艦、潜航管制等に関する監視、操作盤類の設計・製造、艦内の電気機器類に直接給電する分類箱類の製造も行っており、接続する電気機器の数量、電気容量に合わせて一品一品きめ細かに設計、製造され、各種新規品についても積極的に設計等されました。また、耐水圧試験設備などの各種試験設備を保有しており、大手企業の防衛装備品の特殊試験に試験装置を提供するとともに不意急迫した各種調整にも柔軟に対応して頂きました。

これらは、護衛艦及び潜水艦に使用している艦船用電気機器等の品質の確保に長年貢献するとともに、防衛装備品の試作研究及び監督検査業務を円滑に遂行するため協力して頂き、潜水艦の安全な運用に長年寄与したことから、その極めて大なる功績を称えて、深く感謝の意を表したものです。



感謝状贈呈



中野和幸社長（前列中央左）と茂籠勇人局長（前列中央右）

桑畑電機株式会社ってどんな会社なの？

桑畑電機株式会社は、制御システムの設計・製造を実施しており、海上分野では主に貨物や旅客を運送する商船の制御関連製品を、陸上分野では主に物流倉庫の室温管理やダムの開閉ゲート、工場の産業ロボットなど幅広い分野の実績のある会社です。創業はなんと大正2年からであり、大阪市大正区にある従業員数約40名の会社です。古くは海軍省の指定工場及び管理工場に任命された会社であり、当時から一般用電気機械器具を製造しており当時の図面等も残っています。戦後は一般用電気機械器具並びに艦船用配電盤等を製造し各造船所（三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、ジャパン マリンユナイテッド株式会社等）に納入されています。昭和39年には日本工業規格の優良工場として近畿海運局長に表彰された実績もあります。防衛省規格に特化した特殊試験設備を有しており、他社から依頼された機器についても試験を快く受け付けており、護衛艦及び潜水艦に使用されている電気機器等の安定した品質を確保し、日本の防衛に貢献している会社です。

～京都防衛事務所の紹介～

【沿革】

近畿中部防衛局京都防衛事務所は、旧防衛施設庁の設置に伴って、昭和37年11月に大阪防衛施設局京都防衛施設事務所として発足しました。

その後、庁舎の移転や、防衛省への統合に伴う名称変更を経て、現在は、京都市中京区に所在する京都地方合同庁舎に入居しており、京都府と滋賀県を管轄区域として、事務所員6人で業務を行っています。



京都地方合同庁舎

【主な防衛施設】

管内の主な防衛施設としましては、京都府に、陸上自衛隊の福知山駐屯地、桂駐屯地、宇治駐屯地、祝園（ほうぞの）分屯地、大久保駐屯地、海上自衛隊の舞鶴地方総監部、舞鶴航空基地、航空自衛隊の経ヶ岬分屯基地及び在日米陸軍の経ヶ岬通信所が所在しています。

また、滋賀県に、陸上自衛隊の今津駐屯地、饗庭野（あいばの）演習場、大津駐屯地及び航空自衛隊の饗庭野（あいばの）分屯基地が所在しています。

【主な業務内容】

事務所の主な業務としましては、自衛隊や自治体等との連絡・交渉、調査、資料の収集整理のほか、在日米軍基地で働く従業員の雇用主として、雇入れ・提供・解雇・労務管理・給与・福利厚生に関する事務を行っています。

また、京都府京丹後市への米軍基地設置に伴い、関係機関との調整を円滑にしたり、地域の皆さまの不安を解消するために、窓口である京丹後現地連絡所に事務所員を派遣することによって、日々、迅速な対応に努めています。



京都防衛事務所

〒604-8482
京都市京都市中京区西ノ京笠殿町38 京都地方合同庁舎3F
TEL:075-812-1887 FAX:075-812-1888



京丹後現地連絡所

〒627-0241
京都市京丹後市丹後町上野105の1
TEL:0772-76-9070 FAX:0772-76-9071

米陸軍経ヶ岬通信所ニュース

○米陸軍経ヶ岬通信所中隊長（第14ミサイル防衛中隊長）交代式

令和4年8月31日、第14ミサイル防衛中隊はチャド・ブラスフィールド大尉（離任）とジェームス・ウィア少佐（着任）の中隊長交代式を執り行いました。



第14ミサイル防衛中隊によるフォーメーション



茂籠近畿中部防衛局長からブラスフィールド大尉（離任）に感謝状授与

○新中隊長からのご挨拶

新中隊長 ジェームス・ウィア少佐

私は第14ミサイル防衛中隊の新中隊長ジェームスW・ウィア少佐です。経ヶ岬通信所の第14ミサイル防衛中隊からご挨拶申し上げます。私の直近の任務はドイツのヴィースバーデンにて在欧州・アフリカ米陸軍の第3部防空ミサイル防衛運用担当士官でした。この度、第14ミサイル防衛中隊の中隊長に着任の為8月にドイツから直接日本にやって来ました。これからも地域社会、京丹後市の様々な機関との関係を発展させることを楽しみにしております。また、自衛隊の皆様との関係を引き続き構築し、受け入れ国である日本を如何なる形でも支援できればと思います。皆様のおもてなしと、世界で最も美しい国のひとつに温かく迎え入れて頂いたことに感謝申し上げます。ここ日本で任務に就くことを光栄に感じております。



■ ご意見・ご感想等 ■

本誌についての皆様のご意見・ご感想などがありましたら、何でも結構ですでお聞かせ下さい。皆様方のご意見を参考にさせていただきます、より良い誌面作りを目指していきたいと思っております。

(住所) 〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-67 近畿中部防衛局 広報編集委員会 (報道官気付) (電話・FAX) TEL 06-6945-4953 FAX 06-6910-5669 (メールアドレス) goiken-kc@ext.kinchu.rdb.mod.go.jp

近畿中部防衛局では、防衛省の地方拠点としての役割を果たすため、国民の皆様から防衛行政全般にわたる緊急の連絡、情報提供に対応できる体制を確保しております。

夜間及び休日の緊急連絡先
TEL - FAX 06-6945-5381

KINKI CHUBU

2022年 通算 80号
令和4年 12月発行
近畿中部防衛局
広報編集委員会

TEL 06-6945-4953
URL <http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。